

畜産みやぎ

発行所
仙台市青葉区上杉一丁目2番16号
法人 宮城県畜産会
電話 (262-9180)

編集発行人 百井 英一

定価 1部60円

印刷所 K K 東北プリント



第4回ミルクレディースコンテスト ('89. 2. 12)

もくじ

平成元年度畜産課予算の概要	2
登米地区公社営畜産基地建設事業について	4
宮城県における豚系統造成試験	5
昭和63年度における本県乳質の動向	7
と場で見られる疾病、豚の抗酸菌症について	7
随想	8
人の動き	8

平成元年度畜産課予算の概要

宮城県畜産課

平成元年度の県予算は、2月3日に招集された定例県議会に提案され、2月20日の本会議で可決されました。本年度予算は県知事選挙の関係上、骨格予算となりましたので、政策的事業や新規事業は補正予算で措置されることになると考えられます。

平成元年度の県予算は、2月3日に招集された定例県議会に提案され、2月20日の本会議で可決されました。本年度予算は県知事選挙の関係上、骨格予算となりましたので、政策的事業や新規事業は補正予算で措置されることになると考えられます。

畜産課予算につきましても、下記に掲げる事業につ

(単位：千円)

科 目	事 項	予 算 額
1 畜産総務費		491,025
2 畜産振興費		1,717,411
	1. 家畜改良増殖事業費	142,213
	2. 家畜改良対策事業費	3,629
	3. 家畜導入事業費	62,440
	4. 畜産高度生産技術実用化促進事業	15,706
	5. 畜産団地育成事業費	8,896
	6. 肉用牛振興対策事業費	12,965
	7. 畜産物流通対策事業費	11,937
	8. 地域畜産振興事業費	22,474
	9. 畜産経営環境整備事業費	510,483
	10. 畜産経営環境保全対策事業費	1,000
	11. 畜産団体等育成強化事業費	160,179
	12. 公共育成牧場対策費	87,857
	13. 草地開発事業費	472,971
	14. 自給飼料生産事業費	13,971
	15. 流通飼料対策事業費	2,249
	16. 学校給食用牛乳供給事業費	168,555
	17. 生乳流通対策事業費	4,206
	18. 新酪農経営確立モデル事業費	5,680
	19. 畜産総合対策推進指導事業費	5,500
	20. みやぎ和牛の郷づくり推進事業	4,500
3 家畜保健衛生費		187,561
	1. 家畜伝染病予防事業費	73,288
	2. 家畜保健衛生対策事業費	10,306
	3. 家畜衛生技術指導事業費	18,531
	4. 自衛防疫推進事業費	85,436
	合 計	2,395,997

発育促進・食欲増進・栄養補給に

バイミルク

ビタミン・ミネラル総合飼料添加剤

日本全業工業株式会社

飼料は  まるきた印

採卵鶏用配合飼料
ブロイラー配合飼料
肉牛用配合飼料
乳牛用配合飼料

北日本飼料株式会社

石巻市川口町3丁目2番8号

TEL 石巻 0225 (22) 6111
FAX 石巻 0225 (22) 6116

平成元年度主要事業概要

事業名	内 容	予 算 額
1. 家畜改良増殖事業 (系統豚組合せ検定事業)	宮城の銘柄豚づくりのため第6世代検定と他品種系統豚との組合せ検定を実施する。	19,098
2. 家畜導入事業	肉用牛資源の維持・拡大及び肉用牛繁殖経営の安定的な規模拡大を推進する。導入頭数750頭	62,440
3. 畜産高度生産技術実用化促進事業	牛の受精卵移植技術の確立と普及の定着化を促進する。	15,706
4. 肉用牛振興対策事業 (水田肉用牛等生産条件整備事業)	転作田等を活用し、飼料基盤の整備・簡易飼養施設・糞尿処理施設を整備し、地域ぐるみで転作飼料作物等の多給を主体とした肉用牛生産を行う。	12,365
5. 畜産経営環境整備事業 (県営畜産経営環境整備事業)	畜産生産地として発展が期待される地域の総合的な畜産経営の合理化と環境汚染の防止を図る。 ・実施地区 北上地区 (河北町・北上町) 石巻西部地区 (矢本町・河南町・鳴瀬町・豊里町) 白石地区 (白石市・七ヶ宿町) 丸森角田地区 (丸森町・角田市) 大崎南部地区 (小牛田町・松山町・三本木町・鹿島台町)	500,483
6. 草地開発事業 (公社営畜産基地建設事業)	既存畜産地帯の飼料基盤及び畜舎等諸施設を再編整備し、経営規模の拡大を図り、畜産経営の安定化に資する。 ・実施地区 加美地区 (色麻町・小野田町・宮崎町) 栗原地区 (栗駒町・金成町・鶯沢町・一迫町・築館町・花山村) 登米地区 (一迫町・登米町・東和町・中田町・豊里町・米山町・石越町・南方町) ・事業概要 基盤整備 (草地造成・草地整備・飼料畑造成・道路整備等) 施設整備 (畜舎・飼料貯蔵施設・堆肥舎等) 機械整備 (草地・飼料畑管理機械等)	442,166
(公社営畜産基地実施計画策定)	公社営畜産基地建設事業実施のため全体計画を作成する。 ・計画策定地区 大崎北部地区 (古川市・中新田町・岩出山町・鳴子町)	10,000
7. 学校給食用牛乳供給事業	県内産牛乳を学校給食用に安定供給することにより、児童生徒の体位の向上と酪農振興を図る。	168,555
8. 新酪農経営確立モデル事業 (肉用牛新生産技術開発普及事業)	乳用牛(雌)と肉専用種(雄)との交配を行い、交雑種肉用牛(F1)を生産することにより、乳肉複合による酪農経営の安定と肉資源拡大システムの確立を図る。	5,680
9. 自衛防疫推進事業	畜産農家の衛生意識の高揚と家畜伝染病の発生予防を図るため、(株)宮城県家畜畜産物衛生指導協会が実施する予防注射等の事業に対し助成する。 ・豚 コレラ 798,000頭 ・鶏ニューカッスル病 10,798,000羽 ・牛伝染性鼻気管炎 21,000頭 ・牛アカバネ病 19,300頭 ・炭 疽 病 33,300頭	85,436

動物用 (牛専用)
医薬品

トルラミックス

特殊酵母+必須ビタミン+ミネラル配合

株式会社 トーシン

古川市古川字上古川屋敷9番地の1
TEL 0229 (24) 3 2 1 1 (代)



くみあい殺虫剤

強い殺虫力(ハエ・カ)高い安全性

シューバン乳剤

(ピレスロイド様殺虫剤)

くみあい

アルファクロン

(食毒タイプ殺虫剤)



農協・宮城県経済連・全農

登米地区公社営畜産基地 建設事業について

一土地利用型畜産の確立を目指して一

宮城県畜産課

登米郡の迫町、中田町、登米町、南方町、米山町、石越町、東和町、豊里町の8町が、平成元年度から平成4年度まで4ヶ年にわたり、公社営畜産基地建設事業を実施することになりました。

この事業は、将来畜産の発展が見込まれる地域で規模拡大、飼料基盤の拡充、畜舎等の農業用施設の整備を図り、草地等飼料基盤に根ざした足腰の強い畜産農家を創出、新たな生産性の高い畜産主産地を形成することにあります。

登米地方の農業は、農用地面積の90%を水田が占める等米に特化、水田16,300haの約50%はすでに圃場整備を完了、米作は高い安定した生産を維持し、県内有数の穀倉地帯を形成しているが、近年の高度経済成長の過程で各町とも兼業化、高令化、混住化が進展、地域の農業の振興を図るに厳しい情勢下にあります。一方、畜産は水田複合経営の中で選択的拡大部門として、又米に次ぐ作目として経済の高度成長以降急速な発展をとげ、昭和60年度には農業粗生産額の4分の1以上を占めるまで成長しましたが、今だに規模零細、飼料基盤が弱いため不安定な経営体が多く、生産性が低位にあり、畜産経営の改善向上を図るためには規模拡大、飼料基盤の拡充等を進め、生産性の向上を図る必要があります。

現在、本事業に参加、自立した畜産複合経営を目指し、経営体質の強化を図るための規模拡大、飼料基盤の拡充、畜舎等の農業用施設の整備を計画している農家は、酪農49戸、肉用牛110戸、豚5戸の計164戸にのぼり、平成元年度事業着工を待っている。主なる事業内容は、草地等飼料生産基盤の造成整備126ha、道路整備8,490m、畜舎等建設施設64棟、農業用機械施設102台、事業費にして16億72百万円です。事業計

画達成時には、酪農家1戸当り飼養頭数は平均21頭から29頭、肉用牛は25頭から41頭に増頭され、その結果として農業所得が増大し、農家生活の安定向上が図られることになっております。

登米地区公社営畜産基地建設事業概要


事業期間		元～4年	
		事業量	事業費
事業計画	事業種目		
	草地造成整備	126.31 ha	272,385
	道路整備改良	8,490 m	369,690
	施設用地造成	3.11 ha	16,796
	隔障物整備	300 m	570
	畜舎等整備	64 棟	519,721
	飼料調整貯蔵施設整備	サイロ(FRP) 29 基	19,805
	農機具等導入費	102 台	184,150
計			1,383,117
諸経費			288,883
総計			1,672,000

登米地区の各町は、産業の基盤を農業に置き、畜産は米に次ぐ作目ではありますが、昭和62年度から推進しております水田農業確立対策の中でも、酪農及び肉用牛生産を土地利用型農業の基軸として位置づけ、長期的視点から総合的な振興、合理化を強力に推進しており、時を同じくしての公社営畜産基地建設事業実施に対する町、農協、農家の期待には実に大きなものがあります。

本事業の実施期間を4ヶ年としておりますが、事業実施期間中に更に農家の事業への参加希望が増加する場合は、事業期間の延長、事業費の増額等を検討したいと考えております。本地区の広大な水田、山林原野等恵まれた土地資源は、これからの肉用牛等大家畜畜産の振興、発展を可能にしております。今後、登米地域のより多くの方々に本事業が、畜産を通しての総合的な農業生産振興対策補助事業であることを理解していただき、事業が一層強力に推進され、より強く、より豊かな生産性の高い土地利用型農業の確立、農村社会が形成されればと願うこの頃であります。

(草地環境整備係 齋藤喜平)

2年連続上物数
日本一!
仙台牛銘柄推進協議会



正統の
育ちと味

動物用薬品器材のことなら 古い伝統
と信頼のある東北獣医にご用命下さい

本社 仙台市青葉区上杉3丁目3-8

東北獣医薬品株式会社

TEL (25) 7330・7338・7339

仙台営業所 仙台市青葉区上杉三丁目3-8
022 (25) 7338~9

古川営業所 遠田郡小牛田町字関根館野28
0229 (34) 2018~9

仙北営業所 登米郡迫町佐沼字萩洗1
0220 (22) 2278

〈畜試便り〉

宮城県における豚系統造成試験
＝第5世代までの成績＝

はじめに

昭和58年より着手したランドレース種系統造成試験はいよいよ今年度に完成予定です。昨年11月に第5世代の交配が終了し、本年3月、第6世代が誕生します。今回は第4世代までの繁殖成績と第5世代の発育・産肉成績を紹介します。

1. 繁殖成績

繁殖成績は表-1に示したとおりです。第4世代では系統造成完了へ向けて血縁係数をあげるため雄8頭、雌40頭と集団を小さくしました。産子数、ほ乳開始頭数は前世代とほぼ同じでしたが、子豚の5週令、8週令の平均体重がやや下がり、これは下痢発生等による影響と考えられます。

表-1 繁殖成績

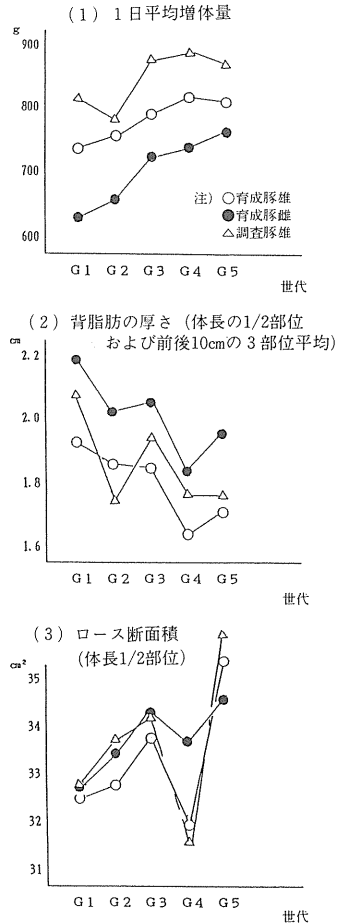
世代	交配雌頭数	受胎雌頭数	受胎率%	分娩雌頭数	1 腹 平 均				子豚の平均体重		
					産子数	ほ乳開始頭数	離乳頭数	育成率%	生時	3週齢	5週齢
G0	56	53	94.6	44	10.3 ±2.1	9.6 ±1.9	8.8 ±1.9	92.0	1.2 ±0.3	5.1 ±1.2	8.0 ±1.7
G1	58	58	100.0	44	11.3 ±2.4	10.5 ±2.1	9.8 ±1.8	91.4	1.3 ±0.3	5.5 ±1.0	8.8 ±1.6
G2	54	53	98.1	44	11.2 ±2.6	10.7 ±2.3	10.0 ±2.3	93.4	1.2 ±0.2	5.4 ±1.0	8.7 ±1.7
G3	57	55	100.0	44	10.6 ±2.1	9.8 ±2.0	8.6 ±2.4	87.0	1.3 ±0.3	5.8 ±1.1	9.4 ±1.7
G4	52	51	98.1	40	10.7 ±2.7	9.7 ±2.6	8.9 ±2.4	89.6	1.2 ±0.3	5.5 ±1.2	8.9 ±1.8

2. 発育・産肉成績

第1世代より第5世代までの育成雄、雌および調査豚(去勢雄)発育・産肉成績を図-1及び表-2に示しました。背脂肪厚は雄、雌ともに世代にともない漸減しており第1世代からは雄で0.21cm、雌で0.24cm薄くなっています。ロースの断面積は第4世代で測定機械の調整不良によって正しい測定値が得られませんでした。

したが今世代の計測によってロース断面積が世代の推移にともなって大きくなってきていることが確認できました。1日平均増体量は前世代とほぼ同じですが第1世代と比較してみると第5世代では90kg到達日齢が雄で5日、雌で16日早くなっています。また飼料要求率も改善され、30kg～90kgまでの飼料消費量は雄で16kg減っています。

図-1 発育・産肉成績






株式会社 五十嵐商会
 仙台市若林区卸町五丁目1番地4
 電話(022)236-2525(代表)

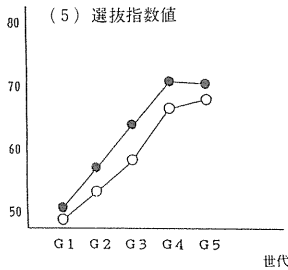
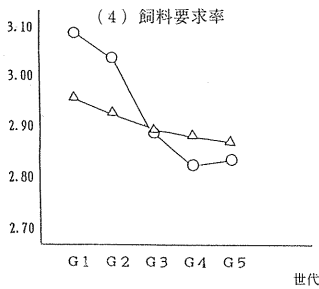


クスリの総合卸
株式会社 エーシン
 EISHIN

取締役社長 山田 修造

畜産営業所 仙台市青葉区木町通り1-5-19 ☎(022)267-7211
 古川市福浦字道の上137-1 ☎(0229)24-1211

本 社 仙台市若林区卸町2丁目10-3 ☎(022)284-8111



3. 衛生関係

各種疾病に対する予防・治療は衛生管理マニュアルにより行っています。第5世代でオーエスキー（AD）、ヘモフィルス、萎縮性鼻炎（AR）、アクチノマイセ

表-2 発育・産肉成績

世代	区分	頭数	90kg日齢	1日平均増体量	背脂肪厚	ロース断面積	飼料要求率	選抜指数値
G1	育成雄	48	157.1±18.3	733.4±54.9	1.92±0.29	32.45±2.40	3.095±0.184	49.98±9.60
	育成雌	125	177.1±15.4	631.4±73.3	2.19±0.31	32.60±2.30	—	50.22±11.47
	調査豚	23	150.8±10.8	804.7±77.4	2.07±0.33	32.80±2.50	2.960±0.244	—
G2	育成雄	47	157.1±8.3	753.1±51.1	1.85±0.23	32.72±2.82	3.033±0.188	53.92±8.35
	育成雌	123	173.2±12.3	650.6±63.9	2.01±0.24	33.38±2.67	—	57.29±9.58
	調査豚	24	157.4±11.5	794.5±76.6	1.74±0.20	33.72±3.60	2.925±0.143	—
G3	育成雄	50	154.2±7.2	792.1±54.5	1.83±0.18	33.73±2.31	2.888±1.644	59.13±7.23
	育成雌	126	162.6±9.3	725.0±60.8	2.05±0.24	34.17±2.66	—	64.48±8.18
	調査豚	24	147.7±12.4	887.0±103.8	1.93±0.19	34.07±1.67	2.892±0.180	—
G4	育成雄	50	148.3±6.3	821.2±45.1	1.63±0.16	31.99±2.88	2.819±0.139	66.90±5.93
	育成雌	126	156.8±7.6	737.7±57.9	1.82±0.17	33.69±2.75	—	70.73±7.07
	調査豚	22	143.2±8.8	897.7±70.4	1.77±0.26	31.64±2.39	2.896±0.131	—
G5	育成雄	48	152.3±6.6	813.1±46.1	1.71±0.18	35.47±3.03	2.833±0.156	68.23±7.83
	育成雌	124	161.1±11.5	756.5±71.4	1.95±0.22	34.47±3.50	—	70.44±10.53
	調査豚	24	148.9±8.4	868.7±80.2	1.77±0.28	36.12±4.16	2.857±0.185	—

ス・ピオゲネス（AP）、トキソプラズマ（TP）の抗体調査を実施したところ、検定終了の90kg時点でAD、AR、APはすべて陰性でした。不活化ワクチンを投与してあったヘモフィルスでは若干の陽性例がみられましたが、感染を示唆するほど高い値はませんでした。このことからかなり衛生的に清浄な豚群として飼養されていることがわかります。また、一時まん延したカイセン症に今回イベルメクチン製剤を用いたところ、かなりの効果が認められました。

おわりに

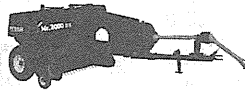
本県で系統造成中のランドレース種は、以上の成績から改良が順調に進み、発育・産肉能力がかなり優れていることがわかります。一方で配布した途上豚の追跡調査を行ったところ、飼養者からは発育、産肉性への高い評価とともに肢蹄や乳器に関して問題が発生した事例もあることがわかりました。改良目標、選抜形質として取り上げた以外のこれらの問題については、系統造成完成後の維持や、増殖の段階での適正な淘汰や飼養管理の方法で対応していくこととなりますが、造成の間にもこれらの問題についてはいくつかの調査が行われており、より効果的な対応策を今後検討していくこととなります。（原種豚造成科 鎌田智子）

より豊かな明日の農業のために

STAR

頼もしい働き者
牧草梱包稲わら梱包に!!

Mr1000 Mr2000DX
Mr3000DX、Mr4000DX



ヘーベラTHB2020

STAR-農機株式会社 仙台営業所

985 多賀城市町前2丁目87 TEL022-367-4573
FAX 367-4846

TCM東洋キットローダ



糞尿処理工程のあらゆる局面で活躍。
畜産農家の近代化に
作業の省力化に大きく貢献します。
豊富なアタッチメント。

TCM東洋運搬機株式会社
東北ティールシーエム株式会社

983 仙台市宮城野区中野字葦畔135-1
電話 022-259-6351

昭和63年度における 県乳質の動向

宮城県生乳検査協会

本県の乳質は近年顕著な向上を示しているが、昭和63年度においては、生乳生産が増産基調となったこと等からやや停滞傾向がみられた。

昭和62年度から脂肪の取り引き基準が3.5%に引き上げられたため、特に夏期を中心とする低脂肪発生防止の対応がとられたので、本年度の夏期の脂肪率は3.6%台を維持し、前年比で約0.1%程度の向上がみられた。しかし、無脂固形分は前年をやや下まわる低迷傾向が認められた。この要因は、乳量の増加に対応する飼養管理と、脂肪向上対策との相互対策が十分に機能しなかったためと考えられる。特に冷夏長雨になり、暑熱対策不用と考えた生産者もあろうが、8月下旬から9月第1週の成分低下は著しく、30%以上の生産者が低脂肪、低無脂固形分に悩まされており、畜舎内の

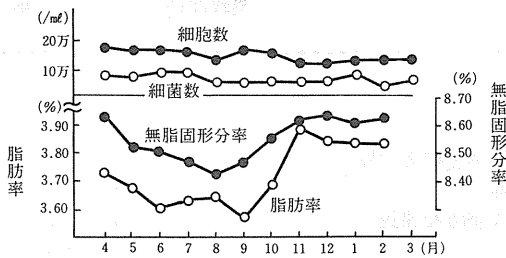


図1 昭和63年度における乳質動向

温、湿度管理を考えた暑熱対策の重要性が示唆された。衛生的乳質は全国上位であるが、細菌数は平均7万/mlで前年並みとなり、細胞数は16万/mlとなり前年よりやや悪かった。増産基調下では、細胞数は増加する傾向が一般的であるため、さらに良質乳生産に努める必要がある。また畜舎環境改善を進め、生乳生産環境を整備し、風味の良いおいしい牛乳づくりを推進することが今後の重要な課題となっている。(荒井威吉)

と場で見られる疾病、 豚の抗酸菌症について

豚抗酸菌症は、肉豚として出荷されたと場で発見されることが多い疾病で、肥育時期には、まれに発育不良を示すことがありますが大部分のものは増体率や飼料効率への影響が無いので、豚舎内では見つけにくい疾患です。原因は、ミコバクテリウム・アビウム・インタセルラーレ・コンプレックス (MAIC) と呼ばれる細菌で、人や牛の結核菌と同属の抗酸菌です。またこの菌は、人に肺結核病巣に類似した病変 (非定型抗酸菌症) を起こすので、と場においては、病変の程度により全廃棄や部分廃棄にされるため、養豚家に経済的損失を及ぼすことになります。

症状は、まったく見られないか、まれに発育不全がある程度ですが、扁桃、下顎および腸間膜リンパ節に病変を作るため、と畜検査で発見されてはじめて本病の感染に気づくことになります。

感染は経口的に起こりますが、その感染源としては敷料として使用するオガズや感染母豚の糞便などが重要です。またこの病気は、と場出荷豚により初めて感染を知ることになるため、その時には豚舎全体が汚染されている可能性があります。

本症の早期発見には、結核と同様にツベルクリン反応で可能ですが、この皮内反応用抗原は現在のところ市販されていないので、と場からの報告等で感染を知った場合には、直ちに最寄の家畜保健衛生所に相談し、消毒等衛生対策の指示を受けて下さい。いずれにしても、豚抗酸菌症の発生防止、あるいは浄化を計るためには、感染源のオガズ等の敷料を別のものに切換えるとともに感染豚の排除のためのオールアウト、さらには衛生の基本である豚舎の除糞清掃、定期的な消毒を中心とした衛生管理が最も重要です。

(仙台家畜保健衛生所 病性鑑定課 岸田忠政)

畜産の健康と未来に貢献する

獣医用薬品・畜産用医薬品・ワクチン・器具機材

小田島商事株式会社

本社 岩手県花巻市卸町66番地
TEL 0198 264151(代)

古川営業所 宮城県古川市稲葉字大江向179-1
TEL 0229238888(代)

花巻営業所	水沢営業所	青森営業所
盛岡営業所	大館営業所	八戸営業所
大船渡営業所	横手営業所	山形営業所
酒田営業所	福島営業所	

ORION

ともに前進 技術のオリオン

酪農家の

声を反映した製品づくりと安心の
おけるアフターサービスは
オリオングループの誇りです。



東北オリオン株式会社

本社 〒983 仙台市若林区鶴代町1番68 ☎(022)284-0691

宮城営業所 古川市福浦字道の106番1号
☎989-61 TEL古川(0229)23-1631

随想 土づくりに思う

土づくりが叫ばれて久しくなるが、声を大にしているわりにその実効はと言われると疑わしいことが多い。昭和63年度の異常気象による被害は、惨々たるものであった、それも、昭和55年に手ひどい災害を体験したにもかかわらずである。たしかに63年度は、低温に長雨が重なった。ここ数年続いた豊作に気がゆるみ、まさか、まさかという思いがこの様な結果を招いたということでは済まされるものであろうか？農家の兼業化、農業従事者の高齢化が進み、適切な対策が構じられなかった事も被害を更に大きくした要因の一つであろう。

しかし、広く被害を受けた中で平年作を上回る確かな収穫を得た農家が実在した事を忘れてはならない。平成元年3月3日、仙台市七北田「イズミティ」で開催された「気象変動に打ち勝つ営農推進大会」の発表で、その実例を紹介している。一つ「土づくりと輪作で安定多収」、一つ「土づくりで安定多収を目ざした稲づくり」等々である。いずれの農家も、土づくりを怠らず、基本技術を身に体し励行している。土は生き、

絶えず呼吸していることを知り、土を生かし続けるため、良質堆肥の生産による土づくりに励んでいる農家です。30年前までは、どんな農家も作物は堆肥で獲るものだと考えていた。ところがこの30年の間に作物は、化学肥料と農薬で獲るものだと考えるようになって来たのではないだろうか？諺に「やせた土は落ちぶれた銀行のごとし出すことをきらう」というのがある。銀行が倒産寸前になると預金を引き出されるのを最もきらうものである。やせた土も作物に栄養分を吸収されるのが最も苦痛で作物を養いきれなくなることである。低温等異常気象下ではなおさらのことである。

農作物が真に健康に生長し、豊かな実りをつけるためには、土づくりこそ農業を営む者にとって第1の仕事でなければならないと考える。今多くの農地は老化現象を来し、そのうえいろいろな化学物質により土壌汚染が進んでいる。我々の生命の安全を保障し、豊かなくらしを守るため、健康な土づくりによる、健康な食料づくりが何にもまして大切な事ではないでしょうか。(農政部畜産課 齋藤喜平)

人の動き

宮城県

- 退職(3月31日付) 農政部技術参事兼畜産試験場長
畜産試験場草地飼料部長兼農業実践大学校
仙台家畜保健衛生所技術主幹
古川家畜保健衛生所技術主幹兼防疫課長
築館家畜保健衛生所
迫 技術主幹兼指導課長
技術主査

- 佐竹 仁郎
石川 英
高橋 和幸
渡辺 益夫
梅村 和弘
宇和野克巳
堂本 島男

4月1日付

Table with 3 columns: 新 (New), 旧 (Old), 氏名 (Name). Lists personnel changes for various roles like 畜産課長 (Livestock Section Chief) and 畜産試験場 (Livestock Experiment Station).

Advertisement for 株式会社美濃谷 (Meinogoya Co., Ltd.) featuring illustrations of a pig, cow, and chicken. Text includes '飼い上手 育て上手は... 動物薬品・獣医器具総代理店' and contact information for various branches.

Advertisement for ビヒダス (Bihidas) yogurt. Text includes 'ビフィズス菌は 生きて腸までとどきます。' and 'ヨーグルト 500ml'. Contact information for 宮酪乳業株式会社 is provided.

新	旧	氏名
畜産課	大河原家畜保健衛生所	及川 克徳
"	仙 台 "	横山 亮一
"	(新採用)	高橋 智子
大河原家畜保健衛生所	畜産課	大沼 篤
"	"	渥美 悦子
仙 台 " 技術主査	古川家畜保健衛生所技術主査	三浦 正行
"	大河原 "	鈴木 正浩
"	仙南食肉衛生検査所	渡部 正樹
古 川 " 防疫課長	築館家畜保健衛生所防疫課長	黒須 敏夫
"	仙北食肉衛生検査所	牧野 仁
"	畜産課	鹿野 裕志
"	(新採用)	鈴木 秀彦
築 館 " 防疫課長	畜産試験場乳牛科長	佐々木和夫
"	古川家畜保健衛生所	曾根 文浩
迫 " 次長	畜産課技術主幹兼家畜改良係長	大村 信
" " 指導課長	" 技術主査	佐々木秀夫
"	(新採用)	斉藤 裕
"	(")	漆山 昌芳
石巻 " "	古川家畜保健衛生所	小堤 和行
"	(新採用)	武田 正寛
"	(")	高橋 伸和
農政部技術参事兼畜産試験場長	畜産課長	滝口初五郎
畜産試験場副場長兼酪農肉牛部長兼農業実践大	畜産試験場酪農肉牛部長兼農業実践大	高橋 功
学実践大		
畜産試験場種豚家さん部長心得兼農業実践大	迫家畜保健衛生所次長	渡辺 好造
学実践大		
畜産試験場草地飼料部長兼農業実践大	畜産試験場種豚家さん部長心得兼農業実践大	佐久間敏彦
学		
畜産試験場酪農肉牛部乳牛科長	" 研究員	峯岸 こう
" " 肉牛科長	石巻家畜保健衛生所技術主査	小野寺千一
"		天野 裕敏
" 主査	築館農林事務所主査	梅田 寿枝
"	畜産課	吉野 淳良
"	(新採用)	佐藤 秀俊
" 総務係長	文化財保護課主査	大友 茂
農政課長補佐	畜産課長補佐	佐藤 廣志
商政課主幹	" 主査	三塚やゑ子
仙台土地改良事務所農道係長	" 技術主査	三浦 孝一
築館農林事務所総務係長	畜産試験場	千葉 裕行
古川地方農事務所出納部主査	" 主査	千坂 光子

宮城県経済農業協同組合連合会

退職(3月31日付) 古川支所(畜産担当)

萩川 信

4月1日付

新	旧	氏名
酪農畜産課長補佐	飼料課長補佐	吉田 勝男
古川支所次長	酪農畜産課長補佐	佐藤 裕
飼料課長補佐	飼料課	辻元 敏明
食肉販売課	電算運用課	目黒 千代
飼料課	畜産総合推進課	鈴木 和久
古川支所兼黒川家畜市場	酪農畜産課兼黒川家畜市場	熊谷 正樹
畜産総合推進課	(新採用)	佐竹 一弘
酪農畜産課兼黒川家畜市場	(")	熱海 伸浩

宮城県畜産農業協同組合連合会

4月1日付

新	旧	氏名
参事兼事業部長 (2月1日付)	事業部長	太田 正巳
栗原支所長	登米支所長	今野 建
登米 "	栗原 "	白鳥 寿
業務課長補佐	仙台支所	小笠原 一郎
古川支所	古川支所玉造出張所	本間 恵子
" 玉造出張所	古川支所	佐藤 吹子
仙台支所	業務課	太田 正利
登米 "	"	佐々木重善
業務課	登米支所	千葉 茂美
指導課	(新採用)	内海 聡
石巻支所	(")	千葉 勝彦

宮城県農業共済組合連合会

退職(3月31日付) 石巻家畜診療所長
 " (") 築館家畜診療所技師
 " (") 迫 "

新田 利明
 沖村 健司
 柳沢 浩則

4月1日付

新	旧	氏名
事業第二部部长待遇	古川家畜診療所長	菅原 通正
角田家畜診療所長	名取家畜診療所次長	吉田 重夫
名取 "	大衡家畜診療所長	高野 貞男
大衡 "	名取 "	平間 盛義
古川 "	角田 "	矢崎 薫
石巻 "	大衡家畜診療所次長	氏家 賢一
家畜診療研修所長	中新田家畜診療所長	南館 君夫
中新田家畜診療所長心得	" " 次長	遊佐 公八
大衡家畜診療所次長	石巻 " "	早坂 雅孝
築館家畜診療所技術主査	白石家畜診療所技術主査	熊谷 敏信
角田家畜診療所技師	名取 " 技師	熊谷 克
名取 "	角田 "	一條 俊浩
中新田 "	古川 "	石川 正光
獣医職員	(新採用)	早坂 久範
"	(")	小島 佳岳
"	(")	生田健太郎

宮城県農業公社

退職(3月31日付) 総務部長
 " (") 農地管理部長

佐々木満州男
 鎌田 昌治

4月1日付

新	旧	氏名
総務部長	(元県築館農林事務所長)	高橋 吉郎
農地管理部長	(前県耕地課副参事)	鈴木 正雄
事業部開発計画課長	(仙台土地改良事務所農道係長)	石橋 正七
白石牧場次長	総務課長補佐兼白石牧場	平間 勲
(県農地開発課技術主査)	事業部開発計画課長	高橋 久寿

宮城県養豚改良協会

退職(3月31日付) 事務局長

熊谷 常雄

宮城県牛乳協会

1月1日付

新	旧	氏名
事務局長	宮城県畜産会事務局長	古山 元彦

宮城県畜産会

4月1日付

新	旧	氏名
嘱託(常勤畜産コンサルタント)事務局長	農政部技術参事兼畜産試験場長	佐竹 仁郎